

特集：入学

期待の道・アブナイ道

漆原 秀子（筑波大学 生命環境科学研究科）

1年生のみなさん、筑波大学生物学類へようこそ。それぞれの想いを胸に新しい生活を始めていることと思います。これからの4年間、生物学をしっかり学んでください。4年生では卒業研究で、そして大学院に進学する人はそこからさらに何年間か、私たち教員とともに研究の醍醐味を味わいましょう。大いに期待しています。

学類長室から「新生を迎えての気持ちや新生へのメッセージなどを書くように」とのことでした。私は心優しい1クラの皆さんに（全員ではないかもしれない）「若く見えますよ。」と言ってもらったけれども、*Homo sapiens*の保障期間だとみなしている50年はとっくに超えて生きていて、こわれても仕方ないでしょうと人生を達観しつつある年代です。とても君たちと同じ目線で見たり感じたりすることはできないし、パフォーマンスも落ちています。でもそのおかげで、あふれんばかりのエネルギーで跳ね回っていた頃や、それが失われつつあることに焦燥を感じていた頃には気づかなかったことが見えているかもしれません。この原稿が皆さんの目に触れるころは1学期も終わりに近づいているでしょうから、入学時の緊張感もうすれて、場合によっては期待と現実のギャップにとまどっている人がいるかもしれません。そこで、そんな君に警告メッセージを送ることにしました。

大学時代は社会人に通じる道です。これまでの高校生活が常磐自動車道のように単純で快適な走りができる道だったのに比べ、まるで首都高みたいに（関東地方出身でない人にはわからないかな？知っている人に尋ねてみてください）瞬時の選択を迫るいくつもの分岐があちこちにあり、しばしば行程を狂わせる渋滞にぶつかり、一度間違えると大変な大回りをするようになるアブナイ道だと思われまふ。落とし穴さえあるみたいです。だから、この道に足を踏み入れたばかりの君たちのことを見るとはらはらどきどきします。免許取り立てでやってきた人は自分がどこにいるかを簡単に見失ってしまうのじゃないかなあ。その挙句、間違った道を延々走ってガス欠になって途方にくれる…。焦って事故を起こすかも…。

別に脅かしたいわけではないのだけれど。でも君たちは首都高を抜けてその向こうの目的地を目指しているはずだから、アブナイとわかっているならその対応をしておきましょう。カーナビ任せにせず目的地に到達する経路を調べておくとういこともいいかもしれないし、大切なのは自分の癖や力量、欠点や強みを知っておくことかも。標識を読んでくれたりおしゃべりで居眠りから救ってくれたりする仲間と一緒に旅するのは絶対にお勧め。その過程で新しい発見があるかもしれないですよ。一運転歴のある人はまだマ

イナーフラクションでしょうが、とてもわかりやすい喩えだから、想像力を働かせて大学生生活関連項目に変換してみてください。

今しみじみ思うのは、若い頃には自分の性質や能力、置かれている状況を正視しなかったなあということです。君たちと同じ年代だった頃、限りないような夢がありました。世界に出たい、どこまでもどこまでも自分の可能性を伸ばしたい、といった類の抽象的なものです。瀬戸内海の「超」田舎で育ち、その環境を好きでしたが、自分がその中に閉じ込められることには断固抵抗するという気持ちがありました。当時はかなり一般的だった「女性だから」という制約も受入れる気はさらさらありませんでした。しかも、努力すればたいていのハードルは越えられました。ところが、大学に入ったとたん、具体性のない夢はモチベーションにはなってくれず、何をしたら良いのかわからなくなったのです。学生紛争のおかげで授業がなかったせいもありますが、大学2年の秋まで真剣に勉強に取り組んだという記憶がありません（注：単位はきちんと取っていました）。もともとは星が好きで宇宙物理学を志望し、入学後生物をやってみようとう方針変更したことによる不安と無知も拗ねた態度に拍車をかけたかもしれません。でも本質は、問題意識が明確でなく、単に理系に親和性を持っていただけの晩熟な生徒/学生だったのではないかと思います。きっとそんなことは認めたくなかったのでしょう。そして原因を他に探していた…。どうやって私が曲がりなりにも首都高を抜けられたかはお想像にお任せします。もし万一君たちが私のように目標喪失感にとらわれても、ひとそれぞれに状況は違うのです。自分をよく分析してふさわしい解決策を探すしかありません。

明確な目標とドライブプランをもって入学した君のためには、偶然や運も作用するという実例を一つ。私は京都で大学院終了間際に教習所に通いました。免許取得が3月23日、学位取得3月25日、3月27日に横浜市金沢区に引っ越して3月29日に車を購入、3月31日に地図を片手に勤務先の東京都町田市までの道を走ってみて4月1日初出勤。ここまでは予定通りだったのですが、当日は道を間違えてひた走り、細い道で対向車とすれ違って脱輪しました。今と違って携帯電話はありませんから、新ボスの柳澤桂子さんは「漆原さん来ないわねえ」。…もちろん遅刻です。こんなに危なげな私だけけど、でもいつも誰か助けてくれて運にも守られて、ちゃんと保障期間を全うしました。想定外のことも起こるのですよ、それにも柔軟に対応してください。（「何それ？」ですかね、やっぱり。）

最後に一言。誰でも「今」の大切さはわからないようです。そもそも悩んでいるときに客観的に自己分析するのはとてもむずかしいことです。だけど、どんなに落ち込んでも最後の最後には踏みとどまってほしい。嘘だと思うかもしれないけど、「毎日の朝ごはん」がこれを救ってくれたりします。前向きに進むという生理的な反応を誘起してくれるのかもしれませんが。かけがえのない今だから、決して安易にキャンセルしないように。そうすれば、卒業式のときに自分の走りを振り返ってみて、どんなに素晴らしい景色を眺めたか、どんなに楽しい会話を交わしたか、どんなに

自分のスキルが上がったかに気付くでしょう。それらはこれから先新しいドライブを始めるための大切なパワーです。

ついでにもう一つ。生物学を学ぶためにここに来たのだという原点を忘れないように。陸路にはちょっとしっくりこないけど、**Von voyage!**

Contributed by Hideko Urushihara , Received April 26, 2008.

Revised version received April 28, 2008.